

# 講義概要

科目基礎情報			
授業科目名	大学院技術英語		
英文授業科目名	Graduate Technical English		
開講年度	2016年度	開講年次	全学年
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	大学院実践教育科目		
開講学期・専攻	情報・ネットワーク工学専攻		
担当教員名	大木 英司、ルカントニオ、 Osei-Hyiaman		
居室	東3-1021 (大木), 東1-611(ルカントニオ)		
公開E-Mail	eiji.oki@uec.ac.jp (大木英司), damian@bunka.uec.ac.jp (ルカントニオ)		
授業関連Webページ			
更新日	2016/03/11 08:38:55	更新状況	公開中
講義情報			
主題および達成目標	情報・通信工学分野における専門技術者や研究者として将来活躍するであろう大学院修士学生諸君にとって、技術英語文章の読解・作成能力ならびに英語でのプレゼンテーションスキルの修得は大変重要である。本授業では、特に重要な英文作成能力の向上を中心テーマに据える。国際会議（英語）論文を書けるようになること、および発表ができるようになることを具体的目標とする。		
前もって履修しておくべき科目	なし		
前もって履修しておくことが望ましい科目	なし		
教科書等	Robert A. Day and Barbara Gastel, How to Write & Publish a Scientific Paper, 7th Edition, Greenwood (第5版、第6版でも可)		
授業内容とその進め方	<p>授業内容とその進め方            表記の教科書の内容から取捨選択しながら、受講者が科学技術英語論文を書き、それに関する英語の発表を行うことができるための知識と方法を講義・演習する。英文教科書を原著で読むことで読解力も養われるが、この読解でつまづかないよう翻訳書の利用も可とする。講義演習は具体的には第2回から第10回までの9回と、第11回から第15回の5回に大別される。前者の9回では、学生のこれまでの研究等を素材にして国際会議（英語）論文（2ページアブストラクト程度）を仕上げる目標を設定する。このため3回ずつ3段階の小目標が設定される。後者の5回は前者で仕上げた論文に基づいて3回+2回の2段階の目標を設定しながら、英語発表資料ならびに発表原稿の作成およびそれらに基づく発表を行う。</p> <p>第1回 4/11 : ガイダンス (大木, Lucantonio, Osei-Hyiaman, 藤井, 松浦, 細川, 八木)            第2回 4/18 : 技術者・研究者としての英語、英語論文の構成、Titleの書き方 (藤井)            第3回 4/25 : Abstractの執筆 (藤井)            第4回 5/2 : 第3回の課題に関する講評 (Lucantonio/Osei-Hyiaman, 藤井)            第5回 5/9 : Results, Discussion, References の執筆 (1) (細川)            第6回 5/16 : Results, Discussion, References の執筆 (2) (細川)            第7回 5/23 : 第5回, 第6回の課題に関する講評 (Lucantonio/Osei-Hyiaman, 細川)            第8回 5/30 : Introductionの執筆 (1) (松浦)            第9回 6/6 : Introductionの執筆 (2) (松浦)            第10回 6/13 : 第8回, 第9回の課題に関する講評 (Lucantonio/Osei-Hyiaman, 松浦)            第11回 6/20 : プレゼンテーション・スライド作成指導 (八木)</p>		

授業内容とその進め方	第12回 6/27 : プレゼンテーション・スライド作成演習(八木) 第13回 7/4 : 作成スライドに関するフィードバック(Lucantonio/Osei-Hyiaman, 八木) 第14回 7/11 : オーラルプレゼンテーション指導(大木) 第15回 7/25 : オーラルプレゼンテーション演習(大木)
授業時間外の学習(予習・復習等)	予習として, 教科書の該当する章を読むこと。
成績評価方法および評価基準(最低達成評価基準を含む)	3分の2以上の出席と4つの課題提出、および口頭発表を行うことを合格の最低基準とする。それぞれの出来により評価がなされる。
オフィスアワー: 授業相談	各担当者が告知する。
学生へのメッセージ	国際競争が激しさを増す中、将来日本の高度情報化社会を担う学生諸君にとって、上記に挙げられた技術英語に関する読み、書き、プレゼンを体験することにより、実践的スキルを身につけてほしい。
その他	
キーワード	技術英語、英作文、英語でのプレゼンテーション